

II 一宮町をさらに住みたく住み続けたい町にするために

総合戦略効果検証評価表		事業実施年度：令和4年度	第2期総合戦略期間（令和4年度～令和8年度）	
関連するSDGsゴール				
基本目標3		<p>評価</p> <p>A:計画以上に進捗しており、継続して推進する。 B:ほぼ計画どおり進捗しており、このまま継続して推進する。 C:目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する。 D:目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要する。</p>		
暮らしの充実度を上げるための子育て・教育・文化の増進				
<p>■本町ならではのライフスタイル（自然豊かでありながら、都心などへの通勤・通学利便性を有する）の維持や、子育て・教育環境の充実を通じて、ファミリー世帯の移住を促進するとともに、一時来訪者を定住に結びつけます。また、就学などで一度町を出ても「また戻ってきたい」と思えるまちづくりに取り組みます。</p>				
事業名	事業内容	R4		
		内容・実績	今後の課題・対策	評価
①住民目線の情報発信強化 (総務課・企画広報課)	自然や子育て・教育環境などの本町の魅力を、広報紙「るるぶ一宮町」、ホームページ、SNSなどを通じて広く情報発信します。文字や画像のみでは伝えにくい内容については、動画コンテンツを作成することでより効果的な情報発信を行います。	主に防災無線の内容を発信していたツイッター等のSNSで保育所の行事や各種行事の広報を多く行いました。また、ホームページは見やすくなるようにレイアウトの修正を行いました。	更なる魅力発信強化のため、1/27/28を主体とした、情報発信を行います。また、広報紙は広報紙アンケート等を参考に読みやすい魅力ある紙面作りに努めます。防災行政無線の受信方法の周知を行う。	B
②子育て支援拠点の環境改善 (子育て支援課)	子育て支援拠点の老朽化に対応し、環境の改善を図ります。	いちのみや保育所では、調理室床修繕等老朽化している箇所の小破修繕や児童や保育士を見守る保育カメラの設置を行いました。また、一宮とろろこ保育園では、月1度在籍がない児童を対象に保健センターで出勤保育を実施しました。学童保育は、図書を充実させ、環境整備を行いました。	公共施設改修に伴う財政計画により、いちのみや保育所大規模改修は令和15年度以降に延期になり、今後も小規模の修繕を行いながら、児童が安心安全な保育を受けられる環境整備を行います。学童保育は児童の意見も取り入れ、環境整備を継続してまいります。	B
③アフターコロナの新たな働き方の促進 (総務課・企画広報課・住民課・税務課・産業観光課)	デジタル化におけるDXを視野に入れた働き方を促進します。また、ワーケーションが可能な地域づくりを行うために、宿泊施設やカフェなどの各種施設の整備促進を図ります。行政機関の日常的な業務にICTを導入し各種証明書の交付を検討し、住民の利便性向上や業務の効率化を図り住民サービスの向上に努めます。	地方創生臨時交付金を活用したアフターコロナ事業の促進として、個人番号カード（マイナンバーカード）を活用した、住民票の写しや印鑑登録証明書、税証明書の各証明書をコンビニエンスストア等で受け取るサービスを令和5年3月から開始しました。また、地方行政のデジタル化を推進するため、住民情報を扱う20業務について、国が示す標準仕様に準拠したシステムへの移行準備を令和4年度より開始しました。	地域の発展や住民生活の質を向上させるためには、行政機関や町内のデジタル化・ITの推進、オープンデータの活用、スマートシティの構築、地域へのIT人材の育成、民間企業との連携などが考えられます。デジタル田園都市国家構想を注視しつつ対応策に取り組んでいきます。また、全町民のマイナンバーカード取得に向け、引き続き申請・交付の支援を行うとともにコンビニエンスストア等での住民票や税証明書の交付の周知を図ります。更に国が目標としている令和7年度末までに、標準準拠システムへの移行を順次進めていきます。また、役場内部における統一的中心部局の設置や内外の研修を行ってまいります。	B
④「防災」「安全円滑な交通確保」「景観形成・観光振興」を踏まえた無電柱化の推進 (都市環境課)	災害時の電柱倒壊に伴う停電防止や魅力的な景観形成のため、玉前神社周辺において無電柱化(電線の地中化)を推進します。	無電柱化について調査検討	関係者との調整、多額の費用など問題が多い	D
⑤新たな教育の促進 (教育課)	児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和を重視した「生きる力」の育成を図るとともに、地域の文化や歴史に触れる活動を通して町民としての誇りや郷土愛を大切にする心を育てます。また、GIGAスクール構想のもと、ICT教育や情報モラル教育の更なる充実を図ります。	総合的な学習の時間で実施した「まちたんけん」や「まちづくりプロジェクト」では、自分自身が住んでいる町で働く人々の様子や豊かな自然、文化に直接触れながら郷土愛や誇りを育むきっかけとなりました。また、パラスポーツ体験や福祉体験、長生特別支援学校との交流など、心のバリアフリーや多様性を学び、共生社会への理解を深めました。ICT教育や情報モラル教育として、各学校においてタブレットや電子黒板を活用した授業展開を実施すると共に、保護者も参加する集会等において「インターネットの危険性」等の講演や情報交換を行い、学校だけでなく各家庭においてもネットトラブルやいじめについて理解を深める機会を設けました。	引き続き、地域の伝統文化の継承や共生社会の形成に力を入れるとともに、人的・物的支援によるICT機器の活用状況の向上及び情報モラル教育の推進を図ります。	B
⑥教育施設の環境改善 (教育課)	児童生徒が安心して学習に取り組める学校環境を整備するために、小中学校や給食施設また社会教育施設(GSSセンター・公民館など)の老朽化対策を行います。	中学校では南校舎屋上防水事業を実施。給食施設では給食備品(冷蔵庫・コンベースチーマー)の入替を実施。GSSセンターではバスケットゴール改修事業を実施しました。	引き続き、児童生徒や施設利用者が安心安全に利用できる施設整備に努めます。また空調故障や耐震不足等で急速に老朽化の進行した公民館について、最優先で改修等の対策を実施してまいります。	B
⑦町の歴史・郷土・文化の増進 (教育課)	本町の歴史や文化への理解を深めるために、昭和39年(1964)に発行された『一宮町史』を全面改訂し、新たな『一宮町史』を編さんします。	令和4年度に「一宮町史編さん委員会」を立ち上げ、会議を2回実施しました。また教育委員会で所蔵する旧家の古文書等について、編さん委員による資料調査を開始しました。郷土の偉人・上総広常が大河ドラマをきっかけに注目され、関連する事業を行い、地域の歴史への興味関心を集めました。	町内外の資料調査を進めていき、町民の方々が参画できるように体制整備、講座の開催等の普及啓発事業を推進してまいります。	B
重要業績評価指標 (KPI)	現状値	目標値	R4実績値	
町ホームページ閲覧数	16万件 (令和元年度)	17万件	14万3千件	
児童生徒の学校生活に対する満足度	—	90% (町内小中学校)	88.5% (令和4年度学校評価アンケートより)	
給食施設の整備方針の決定	—	整備方針の決定	整備スケジュール等、暫定的な整備方針の決定	
文化財講座・歴史講座参加者数	130人 (令和元年度)	150人	208人	